



人生100年時代の健康管理

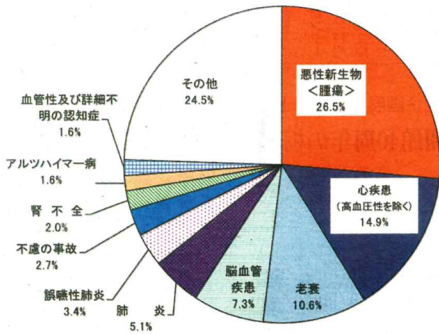
桐生大学短期大学部副学長 山科 章

【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

いきなりですが、がん心不全では、どの死因統計を紹介しようか、と悩んでしまう。総死に数は約

2021年(令和3年) 約38万人、第2位は心疾患14.9%、約21.5万人です。そのうち、多くの日本人は5年後に生存している割合5年生生存率と比較

主な死因の構成割合 (2021年)



⑦ その息切れ、心不全ではないですか？

してましょ。最新の統計によれば、全期(金部位、全病期)の5年生生存率は89.9%です。ところが、心不全で入院した人の5年生生存率は約50%です。主ながんの5年生生存率は、肺がん44.4%、大腸がん70.0%、前立腺がん89.9%、乳がん90.9%です。多々のがん心不全を経過がえいにもかからず、悪いにもかからず、心不全の怖さが国民にあまの知られていないので、循環器学会

と心不全学会が17年に起り、たまたま悪くなり、生命を縮める病なり、息切れ、胸の締めつけ、多くなると、心不全の症状は改善しませんが、悪化と改善を繰り返しながら、たんだん悪くなるのです。息切れは心不全で起る症状ではありませんが、心不全の症状のきつかけになる症状です。心不全の症状をよく理解しよう。対策を講じれば予防も可能です。 ※次回は一不全のステーションです。

保健・福祉

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部(学生などに講義も開講している。